

# 「日本がけんかを売っている」

尖閣諸島・北方領土・国境問題を読み解くために

北海道大学スラブ研究センター

岩下明裕教授に聞く



沖縄・尖閣諸島沖で9月7日、海上保安庁の巡視船と中国漁船が衝突した事件に続き、11月1日にはロシアのメドベージェフ大統領がロシア大統領として北方領土・国後島を初めて訪問した。二つの領土（国境線画定）問題をめぐり、中国とロシアが日本に対して一歩も引かない構えを見せていることには唐突感がある。日本外交に今何が起きているのだろうか。国境問題に詳しい岩下明裕・北海道大学スラブ研究センター教授に聞いた。聞き手・北方圏センター出版部長、山田寿彦

## 日米同盟強化には好都合

中国とロシアが強硬です。

◆中国とロシアが強硬になっていくというより、日本側が中露に対してここ数年強硬になってきたことに反応しているのだと思います。特に前原誠司外相（前国土交通相）は（強硬さにおいて）突出しています。どのくらい戦略的に練り上げてやっているのか分かりませんが、霞が関で米國と仲良くしたい人たちは「米國との同盟を固固にするチャンスだ」ととらえているでしょう。

## なぜ、そのような構図に？

◆日中間が悪くなると、米國は本音では巻き込まれたくなくても日本を支持せざるを得ません。日本にとっては米國に巨額捨てられにくい状況になります。日米同盟が強まり、特に尖閣諸島問題が出てくると、沖縄に海兵隊を置いておく理屈が、北朝鮮に対する抑止力と言うよりも通

りやすくなります。沖縄の米軍基地の問題が当面見えなくなったのはプラスだと考えているはずですが。

日中平和友好条約（78年締結）の交渉過程では日中とも尖閣諸島問題は棚上げしようという考えがあった。中国側は90年代にそれを認めていますが、日本側はいまだに表に出していません。日中間が最悪だった小泉政権下でも尖閣諸島に上陸した中国人をすぐに帰しています。ところが今回は逮捕、連行して拘留延長までしている。

## 危険な瀬戸際外交

◆キーマンは前原外相ですか？

◆明らかにそうでしょう。しかし自らやっていることを理解しているかどうか。多分していない。瀬戸際外交的な外交ですよ。後のことを考えていないことははっきりしている。強硬なことをしたかと思うと、今度は釈放して変な降参をする。米國との関係を修復し、中国には強く出て「主張する日本」のように見せているけれど、たまたまうまくいっているだけで内実は火の車です。ロシアとの関係については思わぬ事態となり、霞が関も頭を抱えています。

なにマイナスではありません。中国ファクターを意識しつつ、日露関係はちやんとしていくでしょう。ただ、日本の方が攻撃的になっているのは事実です。

## 危ないゲームですか？

◆危ないと思います。昔は日本が攻撃的になっても、中露間の深刻な対立がユーラシア大陸側にありましたが、それが今は国境問題が解決し地域は安定しており、他方でユーラシアに近い海の紛争がポイントになっている。陸の紛争の歴史をみると、何とか乗り越えてきていますが、海はもともと公海ばかりで、囲い込むのが難しかった。近年になって囲い込む技術が発展してきました。排他的経済水域の設定などでここ30〜40年くらいの話。深海域も含めて海をどうマネージするかが今後の国際社会の焦点になります。海の国境を守るのには陸よりもコストがはるかに大きいので、海の専門家は共有しようという発想が強い。ただ、中国のような陸の国境大国に、この共有しようという発想がどこまで通じるか。中国は海に万里の長城を作ろうとしているようにも見えます。日本人は逆に国境意識を持っていない人が多く、国境とは何かを知らずにぶつか

## 孤立の道たどる心配

中国、ロシアと紛争を抱え、それを強める方向で米國に抱きつく戦略は短期的にはうまくいっても、日本は孤立を深めることになりそうです。自分を守るために最後は核武装に行き着くかもしれません。イスラエルが良い例ですが、米國はイスラエルは捨てられないが、日本を捨てるのは難しくありません。そうなったら北朝鮮と同じ。核兵器を持って周辺を制圧する外交力が日本にあるかどうかは別にして、このままでは良くないイスラエル、悪くて北朝鮮です。

## 民主党政権になってまた1年ちよつとです。

◆意図しているかどうかはともかく、自民党時代に積み重ねた外交と全く違うことをやっている。鳩山前首相の沖縄に対する対応がそうだったし、中露もそう。中国人が尖閣諸島に入った時にどうするか、あうんの呼吸があったのを無視しました。ロシアとの90年代の交渉でもう言わないことになっていた「不法占拠」を言ってしまう。実力がないから米國を引く張り込んで米

## 解決することが国益に

◆メディアは国益を守れと勇ましく主張して日本人のナショナリズムを刺激しています。しかし、日本の立場は100%正しいと国民が信じ込むと譲歩しにくくなり、外交の手足を縛りませんか？

◆ナショナリズムを前面に出すと国益になりません。尖閣諸島を守ってあそこで紛争が起きていることは国益にはマイナスです。きちんと解決す

## 時計の針を逆回し

90年代の交渉をチャラにする行為ですから、ロシア側も反応することになる。日本が90年代にどんな交渉をしてきたか、みんな忘れていないのではいいですか。「固有の領土」「不法占拠」と言わずに折り合おうとしていたところから時計の針を逆回して行きます。行き着くところは旧ソ連時代と同じで、向こうは「返さない」という理屈になるでしょう。

日露関係にはそんなに矛盾はありません。北方領土問題はずっとこう着状態だし、今力比べする問題ではない。ロシアに何か言うことはそん

とあります。シナリオ的にはロシアは日本を日米同盟側に巻き込みたい。北方領土問題は解決するか、抑えるかして中国を孤立させたい。ところが、前原氏のスタイルはどこにも強く出るわけです。もっともロシアに対して強く出たのは自民党政権時代からで、09年7月に改正した北特法（北方領土問題等解決促進特別法）に「固有の領土」と明記してプレッシャーをかけましたし、当時の麻生太郎首相も「不法占拠」という言葉を使いました。前原氏になって益々過剰になっています。

ると思います。シナリオ的にはロシアは日本を日米同盟側に巻き込みたい。北方領土問題は解決するか、抑えるかして中国を孤立させたい。ところが、前原氏のスタイルはどこにも強く出るわけです。もっともロシアに対して強く出たのは自民党政権時代からで、09年7月に改正した北特法（北方領土問題等解決促進特別法）に「固有の領土」と明記してプレッシャーをかけましたし、当時の麻生太郎首相も「不法占拠」という言葉を使いました。前原氏になって益々過剰になっています。

ると思います。シナリオ的にはロシアは日本を日米同盟側に巻き込みたい。北方領土問題は解決するか、抑えるかして中国を孤立させたい。ところが、前原氏のスタイルはどこにも強く出るわけです。もっともロシアに対して強く出たのは自民党政権時代からで、09年7月に改正した北特法（北方領土問題等解決促進特別法）に「固有の領土」と明記してプレッシャーをかけましたし、当時の麻生太郎首相も「不法占拠」という言葉を使いました。前原氏になって益々過剰になっています。

ると思います。シナリオ的にはロシアは日本を日米同盟側に巻き込みたい。北方領土問題は解決するか、抑えるかして中国を孤立させたい。ところが、前原氏のスタイルはどこにも強く出るわけです。もっともロシアに対して強く出たのは自民党政権時代からで、09年7月に改正した北特法（北方領土問題等解決促進特別法）に「固有の領土」と明記してプレッシャーをかけましたし、当時の麻生太郎首相も「不法占拠」という言葉を使いました。前原氏になって益々過剰になっています。

ることが国益になります。北方領土もそうです。100年たつても譲らないというのは国益になりません。本当に取り返すには戦争するしかない。そんならあなたたは戦争に行くのですか、という話です。そんな覚悟もなく、言葉だけが激しいのは周りから笑われます。

自国が100%正しいという主張を再生産しているメディアもあります。北方領土問題で教えられているのは日本側に都合の良いところだけです。そういうメディアは自覚が足りません。ほとんど関心がなく、その場その場で反応しているからでしょう。それだけが声になっていくので、ちゃんと考えている人が動きにくくなるのは確かです。

### 日本は弱みだらけ

日本人が知っておくべき日本側の弱みとは何でしょうか？

◆世界的な常識では日本で係争がある場所は竹島と尖閣、北方領土。日本政府がどう言おうとこの三つです。実効支配しているから相手の主張を聞かない、では紛争はエスカレートするだけ。何らかの問題を認め、リスクを最小限にすることが国の戦略でなければなりません。国境問

題を世界水準で研究している人のほとんどがそう考えています。

今回の尖閣での日本の対応は全く何も考えていない。口では「領土問題は存在しない」と突っぱねて、やるならやるぞ、みたいな。本当に軍事衝突になったら、ものすごいダメージですよ。そのリスクを最小限にする戦略がないのは決定的な問題です。中国があそこでも降りてくれたのはラッキーでした。歴史的には78年当時の交渉過程がはつきりしない。日本が自国のものだと言ったのを中国が認めたというのはうそ。ずっと棚上げしてきたものを急に触ったんです。

北方領土はもつとはつきりしている。最初は2島返還で終わらせようとしていたのに、敷居を上げて4島にした。弱みだらけです。

——4島にしないと沖縄を返さないで米国に脅された。

もう一つ、吉田茂たちはソ連と仲良くならたくなかった。最初は2島で解決すると米国も思っていなかった。

——ところが、ソ連側の決断で、2島で解決しそうになった。

◆そう。だから慌てて敷居を上げたんです。こう言つと「お前はけし

からん。ロシアがどれたけひどいことをして島を奪ったか」というリアクションが来る。しかし、不法行為と言うなら満州も樺太も北千島も同じです。奪い方がひどい」とはもう言わないという交渉を日本はしてきました。90年代の交渉では、とにかく四つ返ししてくれたら、択捉とウルツプの間に国境線があると認めてくれたら、あとは何も言いません、施政権も認めます、移住費も払いますと。それが「川奈提案(98年4月の日露首脳会談)でした。

(戦争中に不法に奪われた結果としての「不法占拠」とはもう言わないと約束したのに、前原氏はそこに触れている。そう言われたら、ロシア側も「戦争の結果だ」と言うしかない。前原氏が言わせている。

——学校では日本が正しいとしか教えていないのでは？

◆いや、そもそも領土問題を教えるてもいけません。しかし、ちよつと考えれば、仲良くして折り合つて解決しようという意見が結集するはずで

す。北方領土問題をテーマにした高校生の弁論大会の審査員をしています

が、何があつても4島返還だなんていう生徒はほとんどいません。ピースポートのようにピザを取つてど

んどん行くべきだという主張が3位に入ったことさえありました。これにはびつくりしました。ロシア人と共有しようぐらいの意見は当たり前になっていきます。

——今回の事件で特に中国人に対する排外主義がおられる懸念はありませんか？

◆本当にひどいのは北朝鮮に関連する人たちに対してでしょう。中国人には80年代、90年代とそんなに悪い感情はなかった。日本のコミニティーが同質性を中心に置いて異質な人を排除するという構造の中で、最近はそのエネルギーが中国人に向かっているかもしれません。排外主義が向かうレベルはいろいろあると思いますが、中国に対して日本人は歴史・文化の面で尊敬の気持ちがありますから、そう大したことはない気がします。これだけ国際化すると、「何々人は」と一般論では語れません。どこの国にも良い人も悪い人もいる。個別の人間関係の中でそういう感覚になることが大事なのではないでしょうか。

いわした・あきひろ 1962年生まれ。法学博士(九州大学)。研究分野はユラシアをめぐる国際問題。著書「北方領土問題」4でも0でも、2でもなく(05年、中公新書)で第6回大佛次郎論壇賞。